



しののめだより

令和4年度第24号
令和5年3月13日発行
富士東高校情報交換ひろば

「しのめ探究」成果発表会～1年生～

一雨ごとに暖かくなってきました。本格的な春の到来ですね。

3月8日(水)に「しのめ探究」1年生の成果発表会を行いました。1年生の発表単位は「個人」で、各自のテーマに沿って全員が発表しました。体育館フロア全面に30のブース、7ラウンド。静岡県立大学STAFF(学生アドバイザー5人、教員1人)や保護者の皆様にも御来場いただき、大盛況でした。プレゼン初体験だった生徒も多かったことと思います。来年度の探究につながる第一歩として、一人ひとりの「頑張った」が詰まった場内でした。学生アドバイザーからは今後につながる貴重なアドバイスもいただいています。10人に発表内容紹介の御協力をいただきました(掲載順は発表回順。写真は別です)。今後さらに成長していく1年生に期待します!

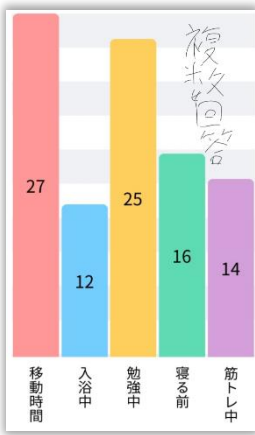


音楽ってなんで聞くの?

音楽ってなんで聞くなのかなと思い、クラスの人にアンケートをとってその結果と論文からわかることを発表しました。結果として、論文に書いてあったことですが音楽には不安軽減効果やリラクゼーション効果という効果があり、今音楽療法としても注目されていることがわかりました(でもその人が今聞きたい曲やその人に合った曲じゃないとその効果は得られない)。クラスのアンケートでどんな時に音楽を聞くかと質問した所、多かったのは、勉強中と移動中でその他にも入浴中や寝る前などでした。あと、好きな曲の系統を聞いた時に、恋愛系や勇気・元気系が多かったです。でも、僕が思うに、勉強中に聞く曲と大会や発表会など緊張する時に聞く曲と音楽をメインで聞く時とでは違うと思います。だからみんなその時の心情に合わせて、その時間聞きたいと思う曲を聞いて心を落ち着かせたり、緊張をほぐしたり、やる気を出したり、ストレス発散、これは音楽の持っているリラクゼーション効果が見られます。最近では、サブスクが発展していてすぐ音楽が聞ける環境があり、今の人は無意識にリラクゼーション効果に操られてます。

Q (県大生に) 音楽と曲の違いを聞かれました。

A 僕の意見になるんですけど、曲は歌詞がある音楽で、音楽は、ピアノの曲など、オーケストラなどと答えました。そしたら「ピアノの曲」と言っとるやんと言われて何も言い返せませんでした。でも例えば夜に駆けるという音楽を曲という人もいれば音楽という人もいて、人によって捉え方が違うと思うので、答えはわかりません。



県大生にも言われたのですが、身振り手振りを使ったり、指でグラフを指したりなどしたかったです。僕は聞いている人が飽きないように、楽しませるエンターテインメントを途中にしたいです。問いかけなども入れて聞き手も話し手も一体となって発表したいです。7分という、本田圭佑さんもびっくりしていたように、案外長く感じるけど話すと緊張で早口になったりして一瞬に感じます。

(①B3/Y.O.さん)

好きな色とパーソナリティー

好きな色	人と誰かの好き?	インドア?アウトドア?	感情が表に出る					
赤	3	2	0	0	2	1	1	
青	8	6	2	5	1	2	6	2
緑	5	5	0	1	2	2	4	1
黄	3	3	0	0	1	2	3	0
紫	4	4	0	3	1	1	3	1
黒	3	3	0	1	0	2	2	1
グレー	1	1	0	1	0	0	1	0
茶	0	0	0	0	0	0	0	0

好きな色と性格に関するアンケートをとり、好きな色とパーソナリティーの関係性と色ごとの特徴を調べました。

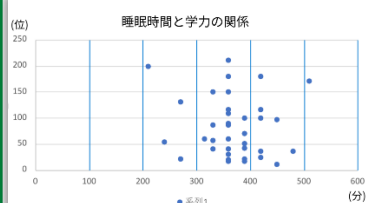
Q 「非協調的(発表内で出てきた単語)」とは?

A その単語の意味を、調べたことをもとに自分の言葉に直して伝えました。

初めて1からアンケートを作り、自分で全てをまとめたので、考察したり、その考察を裏付ける論文を探したりするのが大変でした。また、初めての人もいる中での発表で緊張してしまい、あまり皆の目を見て発表できなかったのが、発表の練習も必要だと感じました。(①B6/H.K.さん)

睡眠時間と学力の関係

“睡眠時間が短いほど学力が高い”という仮説を立てて、アンケートを使って集めたデータを数値化し、相関係数を求めました。その結果、2つの関係性はあまりないのかもしれないという結論になりました。



正の相関...睡眠時間が長いほど学力が低い
負の相関...睡眠時間が短いほど学力が高い

Q アンケートで答えてもらった睡眠時間はいつのものだったのですか?

A テスト後のものです。

アンケートを実施したタイミングがテスト後になってしまったから、テスト前の睡眠時間のデータを使っていたらもう少し関係性が強まったかもしれないと思いました。練習通りいかなかったこともありましたが、自分の調べたことを他の人に伝えることができてよかったです。次の機会があれば発表のスライドをもっと工夫したり、要点をもっとわかりやすく簡潔にまとめたりして、より良い発表を目指したいです。(①E2/H.M.さん)


人のガッツは何に関連しているのか？

自分はガッツな性格なので、何が原因で人はガッツになるのかについて発表しました。結果は遺伝が大きく関係していました。また、血液型、性別は無関係であることもわかりました。

~方法~
右上のアンケートをクラスの人に答えてもらい、その後質問に当てはまった数、性別、親の性格、血液型について答えてもらった。

アンケートの留意
①書いたイラストをばてずにボールに書く。
②アンケートの質問を最初からではなくグループ全員が持っている。
③書いた数を記入し、グループ全員が確認する。
④アンケートが埋まったら、回収ボックスに入れる。

⑤書いた数の合計をグループ全員が確認すること。
⑥自分の発表でみんなの発表を参考にしよう。
⑦発表が済んでしまってもみんなに発表の意を伝える。



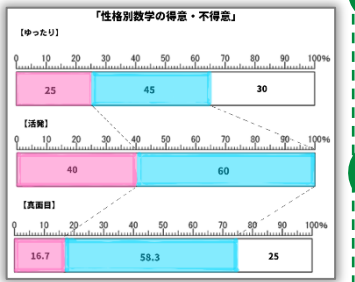
Q 遺伝は生まれた瞬間から持っているものだが、発表ではどのような意味で使っているのですか？

A この発表では育った環境も含めて使っています。

自分が調べたこと、伝えたいことが相手に聞こえないことを一番避けたかったので、相手の目を見て堂々と発表することを意識出来ました。内容は、もう少し考察をしっかりとやるべきだったと思います。アンケートの結果から、論文などからわかることを繋げて説得力のある発表にしたかったです。次は考察に力を入れています。(⑤D6/Y.I.さん)

数学の得意不得意には男女間で差はあるのか？

数学の得意・不得意には、どのような関係が見られるのかを発表しました。男女別数学の得意・不得意や、文系理系別数学の得意・不得意、性格別数学の得意・不得意について焦点を置き、分析しました。男女別では、数学の得意・不得意には差があり、男子の方が得意な人が多かったです。文系・理系別では、理系の人のほうが文系の人より得意な人が多かったです。性格別では、活発な人が一番得意な人が多く、真面目な人が一番得意な人が少なかったです。



Q 性格別数学の得意・不得意を調べる上で、どうして真面目、ゆったり、活発の3種類で質問したのですか？

A 実際にある論文でも、この3種類で質問して、分析していたからです。

数学の得意・不得意の関係を知ることができてよかったです。発表の時に緊張してしまって、早口になったり、言葉を噛んだりしてしまいました。経験を積み重ねていき、プレゼンを上達させたいです。今回の調査を、クラスだけでなく学年全体に聞いて、分析してみたいと思いました。(⑦E5/R.E.さん)



文理選択について

14HRの生徒を対象に文理選択に関するアンケートを行った。アンケート内容は得意科目を問うものでその結果は、男子が理系科目、女子が文系科目を得意とするという結果になりました。そこから、なぜそのような結果になるのか疑問に思い論文を探しました。論文には「男子＝理系」「女子＝文系」という固定概念があるためだと分かりました。

資料1

		国語か数学どちらが得意ですか		
		国語	数学	どちらでもない
男子	男子	7 20	11 20	2 20
	女子	14 22	5 22	2 22
無回答		0	0	1 42

注: 男子の数学得意者は女子の数学得意者の約3倍。

Q 「男子＝理系」「女子＝文系」という固定概念があるかのアンケートをクラスで行いましたか？

A 調査を進めるにつれてアンケートをとった方が良かったと気がつきました。

今回、アンケートを取る際にどのような結果になるのかを予想せずにアンケートを制作してしまったため足りない情報が多かったです。今後、このような活動を行うときには結果の見通しを立ててから行うとスムーズに調査を進められると気がつきました。(⑦B3/Y.M.さん)



- 自分が調査したものを認めてもらいたいという思いをもつ、聞き手を楽しませたいというエンターテインメントの心をもつ。⇒自発的に前を向いて発表できるようになる。
- 情報を集める姿勢——常に「何が分かったのか？」を一言で説明できるようにしよう！(Mさん)
- アンケートの結果、論文からの結果、考察が区別されていて聞きやすかった。
- 見せ方(話し方、身振り手振り)を学ぶのも大事な要素の一つ！(Sさん)

- プレゼンの仕方について、事前の準備が必要！(まずは自分の背景を知ってもらう。人の目の集め方を工夫する。強調する場所を分ける。書きたいことは簡潔に。指差しなどを使って視線を動かすことも大事。)
- テーマを決めて、調べて、アンケートを取って、まとめるという一連の流れができていた。
- 結果は文章だけでなく図などでまとめられるとよかった。
- 事前に質問を想定して準備しておくとうい！(Mさん)
- そうするともっといい発表になる。(Mさん)

- 身近な話題が多かった。
- 調査、まとめ、発表を高校1年生の段階からやるのは素晴らしいこと。大学ではそのような機会が多くある。
- 説得力をもたせる伝え方
Q(qualitative)定性
Q(quantitative)定量
S(specificity)特異性
O(objectivity)客観性を意識するとよい。(K先生)
- 分かりやすく興味深い話が多く、よくできていた。
- 発表は前を見て。自信がもてるまで練習しよう。
- テーマの重複が気になる。
- アンケートは人の話を聞いているだけ。論文や正式なデータで自分の考察を裏付けることが大事。(Wさん)

